

# 金剛寺と応挙



応挙は、1733(享保 18)年5月 1 日、丹波国穴太村(現・亀岡市曾我部町穴太)の圓山藤左衛門の次男・岩次郎として誕生、7 歳の頃から菩提寺金剛寺の玉堂和尚のもとで小僧生活を送りました。絵に対する関心と才能は非常に高く、和尚からも絵師の道を勧められていましたが、和尚の没後間もない 14 歳の頃、京都に出て丁稚奉公をしながら本格的に絵の勉強を始めました。

応挙は、既成概念に囚われない斬新な発想で、従来にはなかった写生や遠近法を取り入れ、写実に徹することで物の本質に迫る絵を描こうとしました。こうして、当時全盛期であった狩野派を凌ぐ圓山四条派と呼ばれる写実主義の一派を誕生させ、その画風は皇室、寺院、武士、町人まで幅広い人々に親しまれ、当時「都中の絵が全て応挙となった」とまで言われました。

1788(天明 8)年応挙 55 歳のとき京都で大火が起こり、生まれ故郷の穴太に疎開、両親の追善供養と小僧時代の感謝を込め、金剛寺本堂の全ての襖、床の間に水墨画を描き寄進しました。「山水図」(13 幅)、「群仙図」(12 幅)、「波濤図」(32 幅)、その全てが現在、国の重要文化財に指定されています。

明治 37 年、当時の国宝に指定後、修復、掛け軸に改装、東京国立博物館(東博)に寄託。美術評論家鈴木進は「(波濤図は)毎年盛夏の頃、年中行事の如く陳列される」(國華第 56 編)と記し、雄大に展示されている様子は夏目漱石の小説「行人」にも登場します。

全ての作品を寺の元の位置で展示した「応挙展」を期に、画聖圓山応挙顕彰会が発足、デジタルアーカイブによる複製画の寄進により、一部の作品は常に皆様にご覧いただける様になりました。

東博寄託の作品は、明治の修復後 120 年が経過、傷みが酷くなったことから京都国立博物館内の文化財保存修理所で、令和 5 年から 9 年がかりで「ふるさと納税」等も活用し、令和の大修復が行われています。

## ◎山水図 (13 面)

旧本堂上間の床間と襖に「山水図」が描かれていました。応挙は、若年時代に視機械(のぞきからくり)に用いられた「眼鏡絵」を描いていますが、そこで会得した透視遠近法は、後年の応挙の作品に大きな影響を与えました。当寺の「山水図」にも近景から中景、さらに遠景へと広がる構図の中に、透視遠近法を吸収した跡をうかがうことができます。また、余白をたくみに利用し、画面の空間性をみごとに生かしています。

## ◎群仙図 (12 面)

旧本堂下間の床間と襖には、中国古来の列仙が描かれていました。応挙は、人物の顔貌(がんぼう)を典型的にとらえようと「人物正写図巻」という作品を残していますが、そこに描かれた人物像の典型が、この「群仙図」にも生かされています。肥瘦緩急濃淡(ひそうかんきゅうのうたん)のある描線で描かれた仙人たちは、世俗的な雰囲気強くたよわせながら、典雅でしかも均整のとれた応挙の人物画の特徴をよくあらわしています。

## ◎波濤図 (32 面)

旧本堂前面の三室に描かれていた「波濤図」は、三羽の鶴とわずかな岩石を除き大部分は連綿と続くダイナミックな波のうねり、波が重なりあい交錯しつつ万里の大海原を描写しています。ボリュームのある波の中に吸いこまれるような圧倒的な迫力を表現しており、又翻潮の中の岩石もリアルに描かれ、ゆるぎない安定感を観る人の心に与えます。激動の中の静止とでもいうべきでしょうか。鶴も荒波を意識することなく、逆らうことなく休息しています。荒波・岩石・白鶴の図は、人生図とも云えるでしょう。

## 金剛寺と応挙の年譜

西暦	和暦	年齢	事項
1733年	享保18年	応挙誕生	5月1日、農業を営む父丸山藤左衛門の次男として生まれる。幼名岩次郎
1738年	元文3年	〃 5歳	玉堂和尚により金剛寺本堂庫裏が建立
1740年	〃 5年	〃 7歳	この頃、金剛寺に小僧として入り玉堂和尚から禅の基本を教えられる
1747年	延享4年	〃 14歳	玉堂和尚寂。この後、京都に出るか。玩具商尾張屋中島勘兵衛に奉公
1749年	寛延2年	〃 16歳	この頃、狩野派の画家石田幽汀の門に入り、本格的に絵の勉強を始める
1756年	宝暦6年	〃 23歳	父没。その後、父の年忌法要依頼の書簡が金剛寺に送られる
1759年	〃 9年	〃 26歳	この頃、眼鏡絵を描くという。「夏雲」「主水」の署名を用いる
1765年	明和2年	〃 32歳	この頃、小僧時代の想い出を基に玉堂和尚の肖像画を描く
1766年	〃 3年	〃 33歳	この年、「応挙」と改名、「応挙之印」使用開始。息子応瑞誕生
1771年	〃 8年	〃 38歳	金剛寺山門建立
1775年	安永4年	〃 42歳	「平安人物志」に画家部筆頭に記載
1788年	天明8年	〃 55歳	正月29日、天明の大火に遭い生まれ故郷の穴太に疎開。金剛寺本堂に障壁画を寄進
1795年	寛政7年	〃 62歳	7月17日没す。法名、円誉無三・妙居士
1904年	明治37年		岡倉天心らの調査で国宝に指定、傷みを修復、掛軸に改装、東京国立博物館に寄託
1950年	昭和25年		戦後、文化財の見直しに伴い、重要文化財に認定変更
1986年	〃 61年		画聖圓山応挙顕彰会発足
1999年	平成11年		金剛寺新本堂、庫裏建立
2023年	令和5年		「山水図」「波濤図」 令和の大修復始まる
2032年	〃 14年		〃 修復完了予定
2033年	〃 15年		応挙生誕300年

### 「ふるさと納税」のお願い(お問い合わせ)

#### ① 亀岡市市長公室 SDGS 創生課

京都府亀岡市安野町々神 8 番地 亀岡市役所  
TEL : 0771-25-5060 Fax : 0771-22-6372

#### ② 亀岡市教育委員会歴史文化財課

TEL : 0771-25-5068 Fax: 0771-25-6128

### 企画・製作 画聖圓山応挙顕彰会

#### 事務局 福寿山金剛寺

〒621-0029 京都府亀岡市曾我部町穴太宮垣内43  
TEL・FAX : 0771-22-2871 <http://www.kongouji.net/>

画聖圓山応挙顕彰会会員募集中

